

北海道大野農業高等学校創立八十周年 園芸福祉科がスタートしています

北海道大野農業高等学校は、昭和16年の開校以来、地域の特色や地域産業の振興に関わる学習を中心に歴史を刻んできました。

令和2年度には、農業科学科・園芸福祉科・食品科学科の3学科体制がスタートし、今年度創立80周年を迎えました。

園芸福祉科とは

園芸福祉科では主に「果樹」「草花」「生物活用」「農業福祉」の4つの部門に分かれ、それぞれ園芸の基礎的知識や技能を学び、福祉の観点で園芸活動をどのように活用できるかなども体験的に学びます。

そして、地域の高齢者施設や特別支援学校、幼稚園や保育園の園児と、作物の栽培や草花の活用を通じて交流しています。また、地域の観光施設や公共施設の花壇の造形など、特色ある活動を行っています。



令和2年度からスタートした園芸福祉科

大谷短期大学附属 大野幼稚園との栽培交流

昨年度まで生活科学科の生徒が取り組んできた大野幼稚園児との栽培交流を今年度から園芸福祉科で担当し、5月に本校の交流圃場でジャガイモの植え付けを行いました。

園児と効果的なコミュニケーションを取るために、園児と生徒を9班に分け、班ごとに作業を行います。班の名前をジブリのキャラクターにして、マスコットバッチを手作りしてプレゼントしました。栽培交流当日には、開会式の挨拶から作業の説明など、生徒が主体的に取り組む姿が見られました。

7月には生育状況を観察しました。ジャガイモの花の色や葉の数を一緒に数え、自分で植えたイモがどのくらい大きくなっているか観察し、順調に生育していることを確認しました。



大野幼稚園との栽培交流



北海道教育大学附属 特別支援学校との栽培交流

高等部の皆さんと実施してきた栽培交流も長い歴史のある活動です。今年度から園芸福祉科で担当し、スイートコーンやエダマメ、ジャガイモの栽培を中心に交流を行っています。支援学校の先生の協力を得て、リモート会議でのような支援ができるかなどの事前学習を行い、理解を深めてきました。視覚支援の重要性を知り、自己紹介カードや作業説明カードを作成するなど、交流を深めるための工夫もしました。

充実した栽培交流ができ、お互いの理解も深まったと感じました。9月には収穫体験を予定しています。今後は販売実習での交流なども計画しており、園芸福祉科らしい栽培交流ができるように、これからも頑張っていく予定です。



北海道教育大学附属特別支援学校との栽培交流



その他の活動

草花やドライフラワーを活用した、地域交流活動も盛んに行っています。七飯

レクリエーション協会の方々を講師に招いて実施したクラフト講習会では、松ぼっくりや生徒が栽培加工したドライフラワーで作品を完成させました。その他にも、地域の高齢者施設の花壇造成をお手伝いをしたり、保育園児とドライフラワーでミニ花束作りを体験してもらったり、積極的に交流活動を行っています。



地域高齢者との交流

大野農業高校でも SDGsに取り組んでいます

昨年度、農業クラブが中心となって、14ある専攻班活動の中にSDGsの17のゴールを意識した目標を立てました。今後もこの取り組みを充実させていきます。

SDGs宣言!

私たちがつくる
私たちのみらい

(大野農業高等学校 教諭 大森 綾子)